

～誰もが安心してデジタルを活用するために～

令和4年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：高齢者のデジタル支援を目的とした地域ICTサポート組織構築のための課題の把握と分析

研究代表者：ソフトウェア情報学部 西崎 実穂

課題提案者：盛岡市情報企画課

研究メンバー：佐々木 淳（地域連携室）佐々木 貴俊・鹿嶋 大孝（盛岡市情報企画課）

技術キーワード：情報格差（デジタルデバйд）、ICTサポート、地域、アクセシビリティ

▼研究の概要（背景・目標）

近年、SDGsやデジタル田園都市国家構想で掲げられているように、デジタルを活用して誰もが生活しやすいよう、地方の社会課題解決方法が求められている。

本研究は情報格差の縮小を目的に、デジタル機器利用に関する実態調査を行い、支援組織構築へと活かすことを目指す。

▼研究の内容（方法・経過）

1. 盛岡市内のスマートフォン教室の実態調査（60歳以上）
2. 大槌町におけるスマートフォンの操作を学ぶワークショップの実施
3. 盛岡市内の高齢者1000名に対する電子機器利用について実態把握のための20項目の質問紙調査（60歳以上）

▼研究の成果（結論・考察）

1. スマートフォン教室の見学、およびワークショップの開催を通して、実践的な課題として、時間や場所の制約、学習の継続性、使用機器が挙げられた。
2. 質問紙調査の回答者は、60代から90代までの591名（男性：280名、女性：304名）得られた（回収率は59.1%）。年代別の違いや、デジタル機器（スマホ）を使用している／していない両面の意見から、具体的な改善項目が明らかになった（図1、図2）。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 本研究で得られた知見を基に、誰もが安心して利用できるアクセシビリティの高いICTサポートのあり方を検討する。
2. 本調査で得られた結果は、市民の潜在的ニーズの一端に過ぎず、今後も継続的な調査が必要である。
3. 調査実施にあたり、ご協力いただいた盛岡市市民の皆様へ感謝申し上げます。

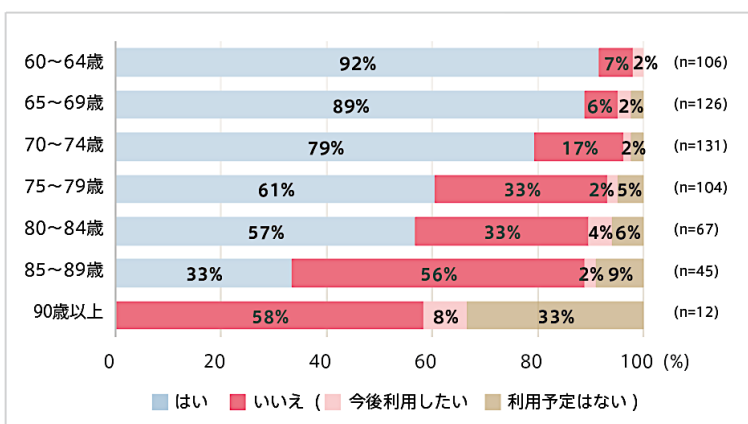


図1: 年代別スマホ使用状況

スマホを使用している／使用していない理由（自由記述より）

はい：「便利」「必需品」「情報収集」「連絡用」が多数。一方、「仕方なく」「電話だけ」「高い」という声も。

いいえ：「必要ない」は84件中1件のみ。「覚えられない」「面倒」「わからない」「年だから」「怖い」「高い」が多数。「今後利用したい」層は、ガラケーからの移行を予定。

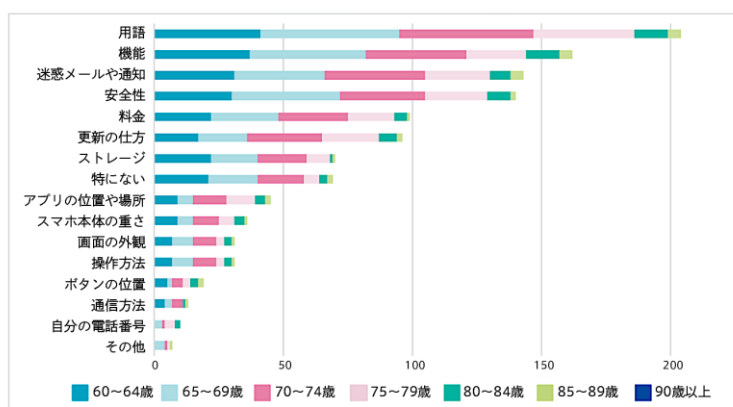


図2: 年代別スマホ使用時の困りごと